

立教  
180年

全教一斉

4月29日祝

# ひのきしんデー



伝えよう感謝の心 広めよう喜びの和



お近くの会場は、天理時報（3月12日、19日、26日号）または天理教ホームページでもご確認いただけます



第535号

発行所

天理教北海道教務支庁  
札幌市中央区南8条西11丁目  
電話011(561)-1148  
FAX011(561)-1190  
E-mail:kyokuh@vega.ocn.ne.jp

印刷

三浦印刷株式会社

## 次代を担う ようぼくへ



北海道教区学生会 春の学生おぢばがえり 3月25～30日

3月27日撮影

おことばを身近に

内て良くて外で悪い人もあり、  
内て悪く外で良い人もあるが、  
腹を立てる、気儘癩癩は悪い。  
言葉一つが肝心。吐く息引く息  
一つの加減で内々治まる。  
—教祖伝説篇 一三七 言葉一つより—

天理教を紹介します



## 天理教基礎講座 TENRIKYO BASICS COURSE

どなたでも  
お聞きいただけます

- ビデオ I (約15分) 「陽気ぐらしの道」  
=天理教の教理や活動を紹介
- 講 話 I (約25分) =天理教の教えと信仰について
- ビデオ II (約25分) =天理教を信仰する人たちの日常を紹介
- 講 話 II (約25分) =天理教の教えと信仰について  
(講座全体の所要時間・90分)

### 《北海道会場の御案内》

- 5月7日 (日) 函館支部会場
- 5月21日 (日) 札幌白豊支部会場
- 6月3日 (土) 13時30分 教務支庁会場
- 6月18日 (日) 千恵広支部会場

教務支庁会場以外の開  
講時間・施設等は決定  
次第お知らせします。

北海道教区のホームページ <<http://tenrikyohk.wixsite.com/tenrikyo-hk>> 教区報がご覧頂けます。



…退寮式にて…  
(前列右が澤田君、左が岸本君)

# 布教の家北海道寮退寮式 (3月13日) 神名を流しひたすら歩いた一年間 いま、門出を迎える

## 一年間ありがとう

### ごぞいました

▼岸本達朗・桜井大(星川分)

長い冬が終わり、無事に退寮の日を迎えることができました。和歌山出身の自分にとって初めての、北海道の冬の寒さに耐えられるかどうか不安でしたが何とか通りきることができました。北海道教区の方が温かくやさしい言葉をかけてくださったおかげです。ありがとうございました。このような結構な中

▼澤田正健・本部

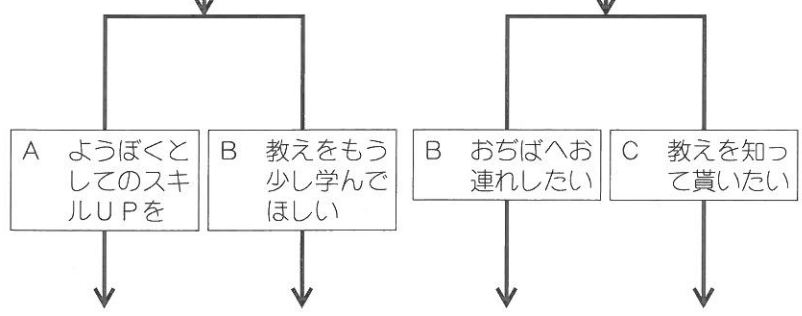
夏は台風、冬は記録的なドカ雪と北海道の人でもなかなか味わえない一年の中の布教でした。にいがけが苦手な私ですが、それでも一年通して歩いていると心から勇める日もあり、にいがけに対する苦手意識が布教の家に来る前と後では明らかに変わっていることを実感しています。これだけでもこの布教の家に来た甲斐があったと思えます。残念ながらおちばにお連れすることはできませんでしたが、通い先も幾つかでき、最後には基礎講座を受講して下さる方もでき、私的にはまずまずな

結果を残せたのではないかと思います。教会訪問などではいろんな場所へ行かせて頂き、時には北海道のおいしいものを食べさせて貰い、涼しい夏、冬の雪かき、ほかの寮では決して体験できない事を沢山させていただきました。この北海道寮に来て本当に良かったなと思います。この一年間本当にたくさんの方にお世話になりました。ありがとうございました。ごぞいました。

## あなたの気になる方をどの講座へお誘いしますか？

ようぼく又は別席運び中である

YES NO



<p><b>A ようぼく成人講座</b></p> <p>ようぼくを対象に、カテゴリー別に受講できる。ようぼく自身の信仰が一段と進むことを目的とする講座。 受講者同士のねりあいを中心に、新たな気づきを誘い実践を取り入れた体験型の講座。</p>	<p><b>B 基礎講座</b></p> <p>天理教とその教えを基礎から学びたいというようぼく、信者、一般の方を対象にしたもの。親里の紹介や、かしものかりもの、親神様、教祖をかどめとしてビデオと講座で体系的に紹介しおちばや別席へ誘うことを目的とする講座。教えに基づいた教話や講師の体験談を交えながら、分かりやすくお話し下します。</p>	<p><b>C 陽気ぐらし講座</b></p> <p>未信仰の人を対象として、ようぼく信者が身近な人に天理教を知るきっかけを作る”にいがけの講座”。「気づきコース」と「教えコース」があり、陽気ぐらしへの考え方、基となる教理をお伝え下さい。</p>
--	---	---



この人紹介・・・  
「たすけられた元一日を忘れず」  
城琴分教会長  
石川フミさん

「ハイ！私も行きます」と元氣な声を出したのは、石川フミさん（城琴分教会長・満94歳）。小柄だがかくしゃくとしておられる。札幌北西支部では毎月、神愛園という福祉施設にひのきしんに行っている。現在は地区毎に交代で行くのだが、人数が足りない時は、率先して手を挙げる。最初の頃からのメンバーで、30年以上も続けている。今回その元氣の源である信仰

代表作「宮本武蔵」を始め人

気の本を多く書いた作家の吉川英治氏は貧困の幼少期であった。そんな彼は読書が好きで本が買えないから、毎日学校帰りに書店で立ち読みをした。書店の主人が感心して毎日の立ち読みを認めてくれたので書店の本はほとんど読破したという。彼は小学校を出ると中学校へ行かず工員として働いたが、家が貧しいので一年分の給与を前借りして家に納めたという。すごい人である。その彼が独学の末立派な作家となつてから「母の愛は無量大だ」と人々の前で云つて涙したという。彼にとつて母は心のよりどころであり情緒の源であつたのである。

天理教を信仰されている或る

国立大学の教授が記したある文章の中の要旨に、「私の母は真底親神様に生かされていると信じている。いつも誰もが感じない小さな事でもありがたいと言つて暮らしている。便所からりきんで赤い顔をして出てきても、お陰で結構に出して頂いてありがたいと手を合わせている。その顔は本気で

ある。その純真な母の顔を見る

私にとつてはこれ以上の安らぎと喜びはない。私は思いを叶えようと自分なりに努力をしてきて、ある程度成功させて頂いて喜んでいるが、この母の喜びの尊さには及ばない。母は常に人のために心をつくして声かけを忘れず今日に至っている。私は、その心の積み重ねが神様か

## 『教理随想 十四』 心のよりどころ

木岡 昭

ら何事も感謝出来る心を頂いたのだと思つている。私にとつてはこれ以上の贈物はない。」とあつた。

母親は先生のよりどころであつたのだろう。一読して私は感動した。

私は今年八十路の坂を登つたところである。若いころから胃腸が弱かつたので八十才までは

もたないと思つていた。今まで勉強も足りず、価値ある働きも出来ず、ただほこり心ばかり多く積んできたと本当に痛感しているばかりだ。こんな事から以前は、八十才まで生かして頂けたら御の字で後は付録の人生だと思つていた。

しかし今はとんでもない思い上がりだと反省し心を新たにしている。私には神様、人様のためにまだ働いていかねばならない使命があると。そのために届かぬながら置いて頂いていると思ふようになった。今は日々ありがたい心一杯である。例えば、今は心が食を楽しむようになった。豪華よりも感謝の心が食を美味しくしてくれている。

私の働きの結果は、人に認められない小さなものであつても、働くのではなく働かさせて頂く心で生涯をまっとうしたいと念じている。

人は心のよりどころを持つと豊かな人生を与えられる。私の心のよりどころは、親神様の懐の中で生かされていることである。

の歩みについて伺つてみた。

フミさんは大正12年生まれ。当時の農家はどこでも大変な生活で、フミさんは母親が農家に嫁ぎ、厳しい姑さんに仕えながら、辛抱しきれず婚家を出たために、生活に困り親から離されて、あちこちに預けられた。7歳の時、生家に戻つたが新しい母と弟妹がいて苦勞の連続。その後、厚真町で結婚。ご主人は細かい人で、食費以外はお金を入れてくれない為、自分で稼いでいた。

生まれてからこれまで、何処に居ても余り者。心は人を恨むばかり。母の姑、母、主人を恨む毎日。そこで仏教を10年。生長の家にも10年頼つたが、心は晴れなかつた。

砂川に移り農家に奉公したり、木工所につとめ暮らしていたが、38歳頃肺病を患い一年間寝たきりとなつた。退院後胃潰瘍になり、2年以上も食べると吐くの繰り返し、ハタキも持てないほど衰弱していた。

仲の良い友人からお道に誘われ、教会の会長さんに会つた。その時会長さんは「自分の為に食べているのに全部出してしまふのだから、これからは人に食べさせる心を使おう」と諭され

た。

それから毎日、自分達が食べる中からお米を一合、御供えさせて頂くと不思議と段々とご守護頂いた。6年目には布教所をさせて頂くようになった。

その後、御主人の仕事の都合で札幌に移り、自身も交通局で働いた。砂川の教会から離れてしまひ、お道の話が聞きたくて、毎月教会の月次祭には前日から行つてつとめさせて頂いた。働いたお金も自分の身にはつけず、お尽くしの上につとめきつた。

17年前、77歳で自転車に乗つていて大きなトラックにはねられ、額を38針縫う大怪我をした。これはどんな神様の思いがあるのかと思つた。

九死に一生を得た後の御用は「教会長」だった。砂川の会長さんより、住宅の南側が空いており神殿建築にちょうどよい広さ。大教会に連日事情教会を復興する為使わせてもらおうと。82歳と高齢ながら教会長としてつとめる事となつた。

お道と出会つて、人を恨みこの世を恨む人生から百八十度転換。今はただ一人でも多くの方をおおぼへと、ご用に勤しむ毎日である。



### 新委員長紹介

女子青年(しらゆき会)



升崎 里美  
(天龍支部・旭台分)

### 【婦人会】 支部主任研修会

去る3月2日、教務支庁において「支部主任研修会」を39名の参加を頂き開催致しました。この研修会は、成人目標、活動方針に基づき、活動内容を確認し、練り合うことを目的としております。

まず初めに教区長様から、御身上の中頂いた、胸にしみる有難いメッセージを教区主任が代読。引き続き教区主任が挨拶に立ち、女子青年大会の時の様子などを交えてお話しされ、皆真剣に聞きつつ、最後は拍手も沸き起こりました。その後、各係からの発表があり、新しく26〜35歳までの女性の集まりを立ち上げる打ち出しがありました。本年は6月3〜4日にこの行事を開催し、婦人会本部の、この年齢の独身女性の丹精に心を向けていきたいとの思いが実現するよう、一人でも多くの輪が広がるようつとめてまいります。

### あなたの教会も「GAGAKU(雅楽)」で人材育成を!!

…平成29年5月3日午後1時〜4日午後2時まで…

雅楽を愛好する人がこんなに多い団体が他にあるのだろうか?しかも「雅楽」はいくつになっても続けられる。貴重な「日本文化」として教外からの依頼も多い。町内会の親睦会などで演奏しようものなら、大好評を頂き、おみちのイメージも大幅アップ!まさに教会にとって強力な資源となること間違いなしです。

さあ、あなたの教会の少年会員、青年会員、女子青年等々、大勢の受講をお待ちしています。

【会場】 北海道教務支庁/【初級者・中級者対象】

【受講費】 3,000円(宿泊、食費を含む)

小・中学生…1,500円

【申込み】 4月15日まで 教務支庁雅楽会事務局  
(FAX) 011-561-1190

【主催】 天理教北海道雅楽会 担当:古川慎司  
電話 0144-67-8485 (FAX兼) 携帯 070-1495-4122

### けいじばん

#### ◎法律に関わる諸問題でご相談

の方は弁護士を紹介致します。教務支庁内の書記(渡部)までご連絡下さい。

#### ◎手話・点字講習会

毎月1日、教務支庁にて午後6時から8時まで行います。

#### ※雅楽練習会も併行して開催してまいります。(二布連)

#### ◎毎月26日に10時より本部月次祭遙拝式をおこなっております。

### 計報

・畑田米太郎様 2月3日出直 (84歳)  
利別分教会前会長 (八雲支部)

・竹内トメ子様 2月22日出直 (93歳)  
道栄分教会前会長夫人(富良野支部)

・浅川 繁様 2月26日出直 (89歳)  
美浦分教会会長 (十勝支部)

・出雲眞次郎様 3月4日出直 (86歳)  
中勝分教会会長 (十勝支部)

### 北海道教務支庁日誌抄

(2月20日〜3月19日)

2月25〜26日 学生会例会

26日 本部月次祭遙拝式

27日 図書修理会

28日 布教の家 寮祭

青年会 委員会議

3月 1日 たすけ推進会議

2日 支部長会議

す。ご(ご)参拝下さい。

「13年くらい前から参拝して

います。おぢばに帰れるのは年

に多くて2回で、教務支庁で遥

拝式があると聞いてから、おぢ

ばがえりのできない月は代わり

に教務支庁に来てお参りをした

いと思っただけがきっかけです。

遥拝式に来ることで、いろん

な人とお会いしてとても勇め

る。皆さんと一緒におつとめを

させて頂けて本当に有難いです

。

4日 婦人会 支部主任研修会  
任命願書発送

第183回基礎講座  
教務支庁会場

講師 山本享子先生

(受講22名 累計8千138名)

10日 事情願書発送

13日 布教の家北海道寮  
退寮式

18〜19日 学生会例会

19日 学生会・学担  
春学準備会議

教区報編集会議

### 編集後記

進級進学シーズン、若者が希望に溢れ、新しい生活、新しい人間関係を作るといふ楽しみな季節でもあるが、不安や心配もつきまとう。親元から離れ、善



よ。これからも元気で居れたら、続けて参拝させていただきたいと思えます。」と、笑顔で語っていただきました。

4月18日は教祖誕生祭遙拝式をつとめさせて頂きます。

き環境で、良い人との出会いがあつてほしいと思うが、一方社会的な集団(カルト教団)に入らないよう、又言葉巧みな儲け話に乗らないよう、疑いの目を持って、消費者センターでは注意を呼び掛ける。

以前、問題となった反社会的集団にも、高学歴な若者が多かった。そこから宗教は「なにかわからないけど恐ろしい」という観念が広まった。

おやさまの教えは「人をたすけて、わが身たすかる」という、崇高な人間愛に満ちた教えである。ゆるぎない信仰を身につける前の若者に、日々に陽気ぐらしを实践する姿。感謝喜びに勇む姿で応えたい。